



特集 9条フェスタ2007特別参加企画

こどもたちの瞳が輝きます あとむのお話コンサート

平成13年度・文化庁芸術文化振興基金による児童青少年演劇自励講座
平成15年度・厚生労働省社会保険審議会高齢福祉部文化財団作品

舞台から語りかけます

人生、いいものみたいよ！

劇団あとむ代表 秋山京子



「大切な何か」が心の中で生きている

ある日、新潟のKさんから、素敵な「風のたより」がフワリ舞い降りました。K牧師さんのお話の一部を伝えて下さるお手紙でした。

『私達の中で、子どもの頃知らされた「大切な何か」は、どこかで生きています。それなしには生きてこられなかった、隣人からの愛、またそれらを教えてくれるお話は、私たちのなかで決して失われません。私にとってそんなお話の一つがトルストイのお話（人は何で生きるか）であり、靴屋のマルチンとして知られているお話や、有名な（イワンの馬鹿）など、幼心に吸い取った話は、忘れられません。私にとってトルストイなどのお話や、母から聞いた話は、どれほど世の中が信頼出来なくなったとしても、希望を失わせない拠りどころとして生きています。』

トルストイのお話の舞台化に取り組む私達に、Kさんから賛意と励ましのおたよりです。

状況は厳しいけれど子どもたちはまだ間に合う！

「この国には何でもあるけれど、希望だけがない」という言葉を聞きます。

映像や、数々の著述で、各国の子ども達が置かれている様々な状況が伝えられます。多くは暗澹とする情報です。又、この国の教育問題は混迷のまま長い時間が経ち、結果の一つとして、悲惨な不毛な出来事しょうそうかんの多発を見て、あんとん焦燥感にとらわれます。

ひとりひとりの子ども達の心の中には、子どもなりの切実な不安、葛藤かつとうもあります。世の中が信頼出来ない子も、生き抜くことができなかつた子たちも増えています。

でも舞台から身近にふれ合う子ども達は、とても元気で好奇心もいっぱい、悪ガキ振りも立派、舞台へのリアクションも、あとむに寄せられた手紙も、生命力あふんに溢れています。「まだ大丈夫、子ども達は大丈夫、まだ間に合う」と、確信します。

社会が子ども達の希望（生きる力）を閉ざしてはならない、と思います。

希望の拠りどころは自分の中にある

劇団あとむは、演出家・関矢幸雄氏の導きで、関矢氏の理念とびたり重なり合うレフ・トルストイ、その作品の舞台化という、素晴らしい役割を得ました。

トルストイは、領地の農民の子ども達、一人前の労働力となって働く子たちの為、登校時間も規則も自由な学校を創り、その教育に生涯、心をかたむけました。その愛と実践にこそ深い感銘をうけます。

子ども達に向けて書かれた、数多くの作品の一つ一つに、大切なものが語られます。あどけないようなお話の中で、幼い子にも深い意味合いや真実を伝えます。

子どもの感想に、〈三匹のくま〉『黙ってひとの家に入ると良くないことが起きるんだね』〈人は何で

生きるか〉『人は、人を思う心で生きているんだ』と、あります。時代や環境が違って、ちっとも古くならない現代のお話なのです。

私達は演劇という素晴らしい手法を以て物語り、想像力・洞察力を限りなく拓げます。

子どもたちへ、「沢山本を読もう。演劇も観てね。ちょっと辛いとき悲しいときに、乗り越える実力がちゃあんとつくよ。乗り越えた時に強くなる。元気になる。人生、いいものみたいよ」と語りかけたい。

私達は希望を失わせない拠りどころとなるための、「一番大切に思わなければならない、なにか」を、そして今、関矢氏の指針「子ども達が、子どもの時代のうちに」、舞台から、勇気を持って語りかけていきます。

上演日程 2007年 **9月29日(土)** 開演13:00
開場12:30

会場 きゅりあん大ホール(8F)
JR京浜東北線・東急大井町線・りんかい線 大井町駅前

チケット 1,000円(小学生500円)
※このチケットで9条フェスタ2007の全ての催しに入場することができます

チケットのお申込はFAXで：FAX03-3442-2381 (TEL03-3442-2333)

